

「プランター農園」でつながる ～『食べる』から『食べてもらう』活動へ～

東淀川区地域包括支援センター
認知症地域支援推進員
泉谷 賀津彦
山中 法子

東淀川区の紹介

総人口	65歳以上人口	高齢化率	面積
176,912人	44,499人	25.1%	13.27km ²
小学校区	包括・ブランチ数		推進員数
17校区	包括4ヶ所、ブランチ4ヶ所		1人(委託包括) ※兼務0.5+0.5



- 大阪市24区中 人口は第3位
- 新大阪駅から近く、キーエンス(精密機器)、コリス(菓子)、神戸屋(パン)等が本社を構える
- 北東端は市営住宅が立ち並ぶベッドタウンとなっている

東淀川区地域包括支援センターの概要

- 委託包括(大阪市東淀川区社会福祉協議会が受託)
- 認知症初期集中支援推進事業を受託する「認知症強化型地域包括支援センター」
- 組織内には…
 - ・ 生活支援コーディネーター
 - ・ ボランティアコーディネーター
 - ・ CSW(見守り相談室) など

『プランター農園』の立ち上げ

経緯

- 認知症初期集中支援チームからの課題提起(2018年2月頃)
 - ・ 若年性認知症の方の居場所が少ない
 - ・ デイサービスに繋がらない方の閉じこもりや家族の介護負担の増大を懸念
- 生活支援コーディネーターと協働し、取り組みがスタート！

■ 達成感の得られる活動がしたい！

- ・ 他の自治体の取り組みを参考に…園芸活動がいいのでは？
- 自分たちで育てた野菜を自分たちで食すのはどうだろう？
- 調理や買い物を行うことで、参加者のIADLの程度も把握できる
- プランターで野菜を育てる = 『プランター農園』 と命名

立ち上げにあたり～人的資源～

■ ボランティアスタッフ

- ・ 既存のボランティアグループ、介護者家族の会OB、
地域で活動中の園芸ボランティア

■ 参加者

- ・ 初期集中支援終了者、地域包括支援センターからの紹介

立ち上げにあたり～物理的資源～

■ 場所

- ・ 社会福祉協議会内のコミュニティスペース

■ 必要物品(土、肥料等)

- ・ 生活支援コーディネーターとの協働

活動内容

2018年5月 活動開始


■ バランダに設置したプランターで…

- 土壌整備～野菜の種蒔き～間引き～収穫
- 何を作るか相談～必要に応じ買い物～調理


■ 玄関前花壇で…

- 花の植え付け、雑草引き、水遣り


最後はみんなで
ティータイム♪




土をならして
種を蒔きます



芽が出たら
間引きます



収穫して
調理します



最初は見ているだ
けだった男性も…



スッキリした
なー



玄関前の花壇も
きれいにします



2019年3月～2020年9月

■ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止

2020年10月 活動再開

- 「作って食べる」ことはできない
- 収穫した野菜は持って帰ってもらおうか？それとも花を育てて加工しようか…？



お待たせしました！

プランター農園 再開します！

令和2年10月7日（水）午後2時～

【場 所】東淀川区社会福祉協議会ほほえみ

【持ち物】手拭きタオル、（お持ちの方は）軍手

【参加費】100円

※汚れてもよい服装でお越しください



・感染症予防の観点から「作って」「食べる」のはもうしばらくお休みします。
・体調のすぐれない方は、参加をお控えくださいますようお願いいたします。

令和2年度の開催予定

11月4日（水） 12月2日（水）
1月6日（水） 2月3日（水） 3月3日（水）
【毎月第1水曜日 午後2時～】

【お問い合わせ・お申込み】

東淀川区社会福祉協議会ほほえみ内 ほほえみオレンジチーム

☎06-7730-0002 担当：泉谷・山中



お久しぶりです！



えらいおおきく
なったなー

子ども食堂に届けよう！

- 生活支援コーディネーターの提案で、地域の子ども食堂に収穫した野菜を届けることに

まずは収穫！



採れたてを
お届けします



小さい子どもなんて
久しぶりやわあ



次は子どもが食べやすい野
菜を持ってこなあかなあ

今回は
・ラディッシュ
・春菊
・野沢菜
をお届けしました！





後日…
おいしそうなお料理の写真を
送っていただきました！



地域の方が趣味で育てて
おられるパンジーの苗を
頂きました



一緒に買い物に行き、
参加者自身が選んで購
入したお花です

おわりに

今後の課題

- ① 自主財源で運営するには？
- ② 参加者の送迎は？
- ③ ボランティアが主となり運営するには？
- ④ 担い手を育てるには？

① 自主財源で運営するには？

■ 活動が軌道に乗り、生活支援コーディネーターは卒業…

→ 必要経費(土・肥料等)について、初期集中支援事業費(委託料)からの捻出は不可

→ 次年度は参加費(¥100)で運営することが目標！

② 参加者の送迎は？

- 行き帰りがおひとりでは難しいケースも
- 現状は相談を受けてから手段や方法を検討している
 - あらかじめ体制を整えておくのがベスト
 - ボランティアコーディネーターとの連携

③ ボランティアが主となり運営していくには？

■ 現在のボランティアメンバーは「お手伝い」からスタート

しており、途中から急に舵を切ることには困難

→ 活動再開後、金銭出納帳の記入(参加費の管理)をお任せ

している

④ 担い手を育てるには？

- 現状は参加者5名程度：ボランティアも5名程度

- 対応できる人数に限りがある

→ 担い手養成 × 認知症サポーター養成のコラボ講座を
開催したい！

■ しっかり決まったプログラムはなく、いつ来ても、来なくてもいい。活動日以外でも、いつでも水やりOK。

→ フォーマルなサービスに繋がらない方も、緩く、長く、つながっている

→ 家族のレスパイトとしての機能も

■ 課題は山積み…でも、とにかく「**続ける**」ことが目標



ご清聴ありがとうございました